

八幡平をもっと楽しむためのフリーマガジン

2021. vol. **31**
Take Free

ハチクラ

ステキな八幡平の情報発信をする倶楽部



寺田から浅沢へ 鹿角街道をゆく

08 八幡平に生きる人 10 食卓を彩る「八幡平レシピ」 12 八幡平あっちこっち

14 ハチクラ通信 16 ビッキーと行く八幡平

寺田から浅沢へ

鹿角街道をゆく

田代山から見た七時雨山(標高1063メートル)。
1日に7回も時雨れることから七時雨山と名付けられたといわれる。

七時雨山を越えて 盛岡と鹿角をつなぐ道

「七時雨」と書いて「ななしくれ」。響きが美しい七時雨山は、ふたつのピークを持つ双耳峰である。かつては、七時雨山の南西麓を鹿角街道が通り、盛岡と鹿角をつなぐ南部藩領内の主要街道だった。街道一の難所と呼ばれた車之走峠(710メートル)付近では、命を落とした旅人もおり、吹雪で遭難した女性

を供養した「お七地蔵」もある。そのような難所があっても、盛岡と鹿角を結ぶ最短ルートだったこともあり、明治時代に竜ヶ森を通る新国道が開通するまでの約1000年間にわたって、人と物資が往来した。

鹿角街道が歴史書に登場したのは878年(元慶2)。陸奥権介・坂上好隆が蝦夷の反乱を鎮めるために秋田へ進軍するために通った。江戸時代には鹿角地方で金山開発が始まり、その後盛岡が南部盛岡藩の拠点になったことで鹿角街道の整備が進んだ。そして尾去沢鉱山で産出された銅を盛岡へ運ぶために宿駅や一里塚など整えている。そして、七時雨山の南にある寺田は、街道の宿駅として栄え、仏教文化が花開いた。その面影を残すのが、聖福寺の白坂観音堂である。今号の「ハチクラ」では、国道282号が通る以前の歴史を刻む鹿角街道を寺田から七時雨山、浅沢まで紹介したい。



カルデラ地形の田代平高原には「七時雨山荘」があるのみ。



七時雨山と田代平高原。七時雨山麓一帯は古くから牛馬の放牧地として使用され、牧歌的な風景が見られる。

鹿角街道【自然と暮らし編】

カルデラの美しい風景と七時雨山

ナビゲーター 斎藤文明さん

縄文時代も今も 自然と共に生きる

七時雨山は今から約150万年前に活動した火山。中心にカルデラ（田代平高原）があり、田代山、西岳などの外輪山が連なる。七時雨山とカルデラを見るなら田代山稜線と聞き、ネイチャーガイドの斎藤文明さんに案内してもらった。

「七時雨山麓一帯は見てのとおり牧野です。昔から馬の放牧が行われた痕跡として一部に残る『天然芝』や土を盛った牧柵『土塁』があります。ほかに、そこに咲いている萩は馬の飼料として大切にしました。『萩刈り』の解禁日には、村々で競って刈ったそうです」

また、「この山道一帯にブナはなく、樹齢50年ほどの林です。ということは、それ以前は森でなく牧野だったと想像できます。自然を観察しながら歩くと楽しさが広がりますよ」と笑う。

斎藤さんは里山を眺め「この田代平は山麓の人たちが祖先から引

き継ぎ活用してきた。今も縄文時代と変わらず自然と共に暮らしていると感じる」と話す。なぜなら神や祖先を大切にす風土が伝承されている。「浅沢神楽」や漆文化がそれである。かつて、浅沢では漆器づくりが盛んに行われ、漆室と呼ばれる土蔵の中で漆を塗っていた。ハレの日には漆器に料理を盛り、振る舞った。使う食材は季節の山や川の幸、畑で採れた作物。今でも季節の食材を丁寧に料理するのが、佐藤ひとみさんだ。

「私は特別なことはしていないのよ。その時に採れたものを料理しているだけ」と笑う。晩秋、佐藤さんは畑のそばを収穫し、畑の周辺の栗を拾い料理をつくる。

斎藤さんは言う。

「安比川流域の縄文遺跡調査で分かったことは、縄文文化は自然環境を活かしており、今もこの里山で持続しています。馬の放牧や漆器も山の自然があつてこそ。里山は宝。このすばらしさを多くの人に伝えたいと思っています」

安比川流域でつくられた漆器に装った「のっぺ汁」。豆腐入りのすまし汁で体が温まる。



佐藤さんは秋には畑の栗の実を拾い、「渋皮煮」をつくる。



斎藤さんと佐藤ひとみさん(右)。佐藤さんはそばを栽培し、そばも打つ。



鎌倉時代から伝わる「浅沢神楽」。式舞、権現舞、狂舞などの演目がある。



八幡平市生まれのネイチャーガイド・斎藤文明さん。東北の自然に詳しい。



田代山に咲く萩。斎藤さんは「馬は萩を好んで食べる」と話す。



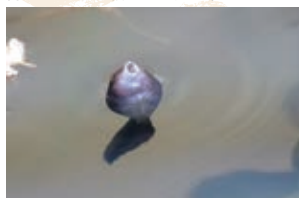
樹上で暮らす森の住人

鹿角街道【モリアオガエル編】

ナビゲーター 三浦学^{がく}さん

三浦学さんは、モリアオガエルが森から出てくる春から秋にかけて、モリアオガエルを撮影している。「毎日のように観察していても、新しい発見や驚きがある」という。

三浦学さん撮影のモリアオガエル。木の上で生活しやすいように指先に大きな吸盤を持っている。三浦さんは、25年以上モリアオガエルの生態を記録し続けている。



幼生初期(オタマジャクシ)



幼生後期



成体

モリアオガエルは森林に生息し、産卵期だけ沼や池に集まる。カエルは水中で産卵するのがほとんどだが、モリアオガエルは水面上にせり出した木の枝に卵塊を産む。そして、孵化したオタマジャクシは水面に落ち、成長するにしたがって、水中から陸に上がり、森へ帰る。この生態や行動に神秘を感じているのが、オルカデザイン代表で写真家の三浦学さんだ。

『大揚沼モリアオガエルおよびその繁殖地』が国の天然記念物として指定されていますが、八幡平市ではそれ以外の場所でも姿を見ることが出来ます。それだけ森が守られているということなのです」と話す。

全国的に生息地が減少しているなか、近くの池や森にモリアオガエルがいる。この豊かさ、また鹿角街道の宝かもしれない。

■ 鹿角街道の自然や歴史を体験できるツアーの詳細は本誌P.14「ハチクラたび」をご覧ください。

鹿角街道【歴史・伝説編】 伝説が残るロマン街道

ナビゲーター ^{とりのうみ} 鳥海良信さん

高清水登山口付近に残る「七時雨一里塚」。こんもりと盛られたふたつの塚の間を街道は通っていた。

コーディネーターの鳥海さんは、季節の星座や野鳥の話も折り込んで散策ガイドを行う。



マンダの太木に抱かれる「お七地蔵」。厳冬に吹雪で遭難した女性を供養したものだ。



鹿角街道の伝説を記した絵本「だんぶりちようじゃのたからもの」(加藤美南子著)。



だんぶり長者
ゆかりの地を歩く

明治時代に新国道が開通するまで盛岡と鹿角を結ぶ唯一の道だった鹿角街道。コーディネーターの鳥海良信さんは「100年の歴史を有する鹿角街道には、多くの伝説や逸話が残っています」という。

そのひとつが「だんぶり長者伝説」で、米代川の名前の由来や大日靈貴神社の縁起を伝えている。だんぶり長者の娘・吉祥姫は、天皇に召されるとき、峠を越えて寺田の宿に入り、奈良に向かったという。そのほか、征夷大將軍・坂上田村麻呂、白坂観音堂の開祖・行基、吹雪に巻かれたお七などの話もある。

「広大な田代平高原で仰ぎ見る星空は感動的！周囲に明かりがなく、古代の旅人と同じ星々を観望できます」と鳥海さん。

人が行き交えば歴史が残る。それを感じながら歩いてみては。

八幡平には、いろんな人がいて、
いろんなことを考えている。
共通するのは、
「こころで、いいまちだよね」。
暮らしてこそわかる、
八幡平の魅力とは――。

八幡平に生きる人



1 鹿角街道の宿場町だった寺田地区。街道沿いにはかつての歴史を体感できる史跡や風景が残っている。2 七時雨ロマンの会では、寺田地区と鹿角街道の歴史や文化、会の活動をまとめた冊子を発行している。3 安代から見た七時雨山。七時雨山の特徴である双耳峰の稜線がきれいに見える。

はたけやま しろし

1947(昭和22)年、旧西根町(現・八幡平市)出身。岩手県立盛岡農業高等学校卒業。家業の農業に10年従事したのち、日本植生に入社。退職後、2011年(平成23)から寺田コミュニティセンター長を務め、今年4月退任。趣味は登山。

「定年退職後の楽しみに」と思い参加しました。勉強したり、活動したりするうちに、ここには貴重な歴史文化や自然などがあり、次世代へ継がなければと思うようになりました。

寺田コミュニティセンターの隣に「西根歴史民俗資料館」が建つ。縄文時代からの歴史・民俗資料が収蔵・展示され、中には岩手県指定文化財「瑞花双鳳八稜鏡」や「木造地藏菩薩立像」など貴重なものもある。畠山さんは、「ここは、鹿角街道と七時雨山のことをコンパクトに知ることができる場所」と話し、「立ち寄ってほしい」とすすめる。

鹿角街道は、寺田から七時雨山南西麓を経て安代へと通じる。この道には白坂観音堂や一里塚、道標など、往時を偲ばせるものが残り、時の流れが感じられる。畠山さんは、より多くの人に鹿角街道の魅力を知ってもらいたいと考えている。それが地域の活性化にもつながるからだ。



寺田を愛し、歴史を学び 街道の魅力を伝える

七時雨ロマンの会事務局長
寺田コミュニティセンター・前センター長 畠山城司さん

八幡平市西根寺田地区は、江戸時代に盛岡と秋田・大館をつなぐ鹿角街道の宿場町として栄え、さまざまな文化が育まれてきた。今年4月まで寺田コミュニティセンターのセンター長を務めた畠山城司さんは「寺田は落ち着いた雰囲気、街並みが残り、人々は穏やかで、子どもが健やかに育っている街」と話す。しかし、若いころは「地味な田舎村」と思っていたという。この認識を変えたのが、地元のコミュニティ団体「七時雨ロマンの会」だった。

七時雨ロマンの会は、2001年(平成13)に七時雨の自然や地域を愛し、歴史を学ぶことを目的として発足。鹿角街道の整備や復元、ガイドマップの作成などを行っている。

「定年退職後の楽しみに」と思い参加しました。勉強したり、活動したりするうちに、ここには貴重な歴史文化や自然などがあり、次世代へ継がなければと思うようになりました。



フレッシュな「八幡平マッシュルーム」の
絶妙な歯ごたえと旨味を
存分に楽しめるサラダ。
さわやかなオニオンドレッシングが
おいしさを引き立てる。



成澤文子先生の

八幡平マッシュルームのサラダ

材料(2人分)

- 八幡平マッシュルーム(ブラウン) [八幡平市産] 6個
- タマネギ 1/6個
- パセリ(みじん切り) 適量
- 塩 小さじ1/4
- A 米酢 大さじ1/2
- エキストラバージンオリーブ油 大さじ2と1/2

作り方

- ①「八幡平マッシュルーム」はペーパータオルなどで、汚れを優しく払い落とす。縦4〜5等分にスライスする。
- ②タマネギをみじん切りにして、水に1分ほどさらしてからザルに上げ、ペーパータオルで水気をしっかり取る。
- ③ボウルにAを入れて、①・②とパセリを加えてあえる。
※お好みで黒こしょうを少々(分量外)ふってもおいしい。

八幡平レシビを愉しむ宿泊プラン

撮影のためにレシビを再現した「地産地消レストラン&ペンション スターダスト」では、今回の料理が味わえる宿泊プランをご用意。詳細は、スターダストまでお問い合わせください。

地産地消レストラン&ペンション スターダスト

■八幡平市安比高原167-17 ■TEL 0195-73-5132 ■八幡平レシビを愉しむ宿泊プラン/平日1名9,800円〜(税込・1室2名利用の場合)

「八幡平レシビ」で使用している

八幡平市の食材・特産品は、
「ハチクラCLUB」から購入できます。

ハチクラCLUB



■撮影協力/フードコーディネーター・近藤祐子(地産地消レストラン&ペンション スターダスト)



食卓を彩る 八幡平レシビ
八幡平市では、数多くの食材、特産品がつけられている。
それらを使ったレシビを料理家の皆さんが紹介。
誰でも楽しくつくれる料理なので、ぜひお試しを。



大橋ひろ美先生の

鶏胸肉のやみつき 甘酒ドレッシング添え

淡白な鶏の胸肉に

「麴屋の塩麴」を塗って旨みアップ。

さらに「麴屋のこうじ甘酒」などを使った

発酵ドレッシングをかけてヘルシーな一品に。

材料(2人分)

- 鶏の胸肉 1枚
- パプリカ 1/2個
- 水菜 1株
- ミントマ 6個
- 麴屋もとみやの麴屋の塩麴 [八幡平市産] 小さじ2
- 麴屋もとみやの麴屋のこうじ甘酒 [八幡平市産] 大さじ3
- A 麴屋もとみやのこうじみそ [八幡平市産] 小さじ1
- マヨネーズ 大さじ1

作り方

- ①鶏の胸肉を8等分くらいに薄くスライスして、表面に麴屋の塩麴を塗り、ビニール袋に入れて30分以上ねかせる。
※一晩おくと味がよくなじむ。
- ②胸肉を耐熱皿に重ならないように並べてからラップをし、電子レンジで(600w)で2分間くらい加熱する。
※食べやすいように裂いてもよい。
- ③野菜を食べやすい大きさに切り、鶏の胸肉と一緒に盛りつける。
- ④Aを混ぜてドレッシングを作り、鶏の胸肉にかける。

⑤ 八幡平市博物館



松尾釜石環状列石から出土した「土偶」。

八幡平市の歴史や文化、生活をテーマにした多様な資料を展示している。市内の縄文遺跡からの出土品が展示され、ぜひ鑑賞したいのは松尾釜石環状列石出土の「土偶」。そのほか、安比川流域の漆文化も紹介しているので、気軽に立ち寄ってみては。

■ 八幡平市 呷田230 ■ TEL 0195-63-1122 ■ 開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで) ■ 入館料／大人210円、中学生以下無料 ■ 休館日／月曜(祝日の場合は翌平日)、年末年始
企画展「縄文の折りのかたち」／10月5日(火)～11月28日(日)開催

④ 安比塗漆器工房



いつもそばにおいて使いたい漆器の数々。デザインのバリエーションがあるので、好みのものが見つかる。

■ 八幡平市 呷田230 ■ TEL 0195-63-1065 ■ 営業時間／9:30～17:00 ■ 定休日／月曜・祝日、年末年始 ※不定休あり

歴史遺産「奥南部」漆物語(安比川流域に受け継がれる伝統技術)が日本遺産に認定され、漆に注目が集まっている。その文化を体感できるのが「安比塗漆器工房」だ。ペーパー用のスプーンから普段使いの椀、ハレの日に使える重箱などが揃っている。

① イタリアン×和食 Luce〜ルーチェ〜&まるかん



かぼちゃの種とイタリア産はちみつをかけて味わう「かぼちゃとイタリア産マスカルポーネのピッツァ(1,400円・税込)」。

■ 八幡平市 西根寺田15-29-1 ■ TEL 0195-77-2520 ■ 営業時間／ランチ11:30～14:00(13:30LO)、ディナーは完全予約制 ※テイクアウトを承り中(事前電話必要、ランチタイムは上記時間、ディナータイムは17:30～受け取り可能) ■ 定休日／日曜夜、月曜



あっちこっち

八幡平

気になるあの店この店

鹿角街道を散策
立ち寄りスポットで
ひと休み&ショッピング



③ 七時雨山荘 茶居花



「クリームみつ豆(450円・税込)」と「コーヒー(400円・税込)」でカフェタイム。

七時雨散策の途中で立ち寄りたい「山カフェ」。七時雨山の湧水で淹れた「コーヒー」や昔懐かしい「クリームみつ豆」でリフレッシュ。また、いま話題のテントサウナ(要予約)などのアクティビティも行っているので、お問い合わせを。

■ 八幡平市 古屋敷96 ■ TEL 0195-72-2103
■ 営業時間／10:00～16:00 ■ 定休日／11月5日～4月下旬

② 七時雨鉱泉 七時雨憩の湯



少し白濁した湯は、メタケイ酸を多く含み、眼病にも効果があるとか。

七時雨山麓に湧いた冷泉を4キロ以上も引き湯し、蒸気で温めた貴重な温泉。浴槽には湯花が咲いており、皮膚病に効果があるといわれている。その湯力は浴槽についた湯花の塊からも分かる。湯上がりは湯冷めしにくく、散策のあとにも最適だ。

■ 八幡平市 西根寺田25-191-1 ■ TEL 0195-77-2573
■ 入浴時間／10:00～20:00(最終受付19:00) ■ 入浴料金／大人600円、小学生300円、未就学児無料 ※八幡平市高齢者等温泉館入浴利用料証を提示された方は200円
■ 休館日／第1月曜、12月31日・1月1日

ハチクラ vol.31 読者アンケート

問1

「ハチクラ」をどこで入手しましたか？

問2

本誌を入手した動機は何ですか？（複数回答可）

- 1 表紙に惹かれたから
- 2 内容がおもしろそうだから
- 3 八幡平市の観光に興味があったから
- 4 地元の情報を知りたかったから
- 5 無料だったから

問3

今号の記事でおもしろかったものを挙げてください
（複数回答可）

- 1 特集「寺田から浅沢へ 鹿角街道をゆく！」
- 2 八幡平に生きる人
- 3 食卓を彩る「八幡平レシピ」
- 4 八幡平あっちこっち
- 5 ハチクラ通信（読者の声・プレゼント）
- 6 ピッキーと行く八幡平

問4

「ハチクラ」へのご感想・ご意見をお書きください

今号の「ハチクラ」はいかがでしたか？
今後、充実した内容にするため、
皆さまの声をお聞かせください。

プレゼント

本ページのアンケートに回答して下さった方に
抽選でプレゼント！ ふるって応募してください。

1

麴屋もとみや

「麴屋の塩麴」
「麴屋のこうじ甘酒」
「こうじみそ」
のセット



5名様

2

ジオファーム八幡平

八幡平マッシュルーム
ブラウン
無選別規格(1kg)



2名様

プレゼント & アンケートの応募方法

官製はがきに以下のことを記入し、ご応募ください。
webフォームやFAXでも応募OK！

- 1 ご希望のプレゼント（ご希望の品名をご記入下さい）
- 2 アンケートの回答（問1～問4）
- 3 住所・氏名・年齢・電話番号

■ 送り先

〒028-7111 岩手県八幡平市大更35-63-85
八幡平市商工会「ハチクラ」係

■ FAX 0195-76-2145

■ webフォームからもご応募できます
http://bit.ly/3zSKsUp

■ 応募締切

2021年11月15日(月) 当日消印有効

当選は商品の発送をもって代えさせていただきます。
今回ご記入いただいた個人情報は、八幡平市商工会の個人情報保護
方針に基づき、責任をもって管理します。本人の同意を得ずに第三
者に開示することはありません。



次号のハチクラ vol.32は
2021年12月25日発行予定

八幡平をもっと
楽しむためのフリーマガジン **ハチクラ**

2021. vol.31 令和3年9月25日発行

企画・発行・問い合わせ先 八幡平市商工会
岩手県八幡平市大更35-63-85 TEL 0195-76-2040
https://www.shokokai.com/hachimantai/

編集・取材・文／三宅真由美 デザイン／青木哲哉
撮影／大谷広樹 印刷／川口印刷工業株式会社

■ 本誌に掲載している情報は、2021年9月10日現在の
ものです。発行後のデータ等が変更になっている場合
があります。あらかじめご了承ください。
■ 本誌掲載の記事・写真等の無断掲載を禁止します。

読者の声

ハチクラ30号に寄せられた
読者からのコメントを紹介。

● 知らないこと、知らない店などがあ
るので、今度行ってみたいです。八幡
平市を離れた友人に地元の菓子を送る
ときに「ハチクラ」を同封しようと思
います。
(八幡平市 H・S)

● 八幡平アスピーテラインを使って、
山を堪能しています。1500メート
ル級の山を気軽に登ることができるの
は、日本広しといえど、なかなかあり
ません。山を楽しんだあとの楽しみを
与えてくれるのが「ハチクラ」です。
(青森県 M・T)

● 子育て中なので、八幡平食材を使っ
た「八幡平レシピ」が役立ちました。
山ぶどう塩や塩麴など、貴重な食材が
たくさんあると知り、また足を運びた
くなりました。
(盛岡市 Y・I)

● 文章が長くなり、気軽にパッパッと
読めて、内容もわかりやすくてよいと
思います。
(盛岡市 N・A)

会員募集中！

● 「八幡平に生きる人」を読みました。
息子が千葉県に就職してしまい、逆に
八幡平市に来る人もいて、うれしく思
いました。
(盛岡市 N・S)

「ハチクラFANCLUB」は公式ファン
クラブとして、ハチクラの活動を応援す
ることを目的にした、ハチクラファンの
ためにメンバーを募集します。ハチク
ラの活動を応援しようという方ならど
なたでも加入できます。

■ 入会費・年会費は無料

■ 特典

- 1 ハチクラの最新号をお手元にお届けします。
- 2 ハチクラツアーなどのイベントをご案内します。

■ 入会方法

希望の方は、メールでのみ受け付けます。
件名に「ハチクラメンバー希望」、メール本文に
住所、氏名、年齢、職業、メンバー希望動機を記
入し、送信してください。確認後、2～3日中に
メールを返信します。

送信先 hachikurafan8@gmail.com

back number

バックナンバーのご案内

「ハチクラ」バックナンバーのお求めは、
下記までご連絡ください。
送料のご負担をお願いいたします。

連絡先

八幡平市商工会
TEL 0195-76-2040
(受付時間／平日9:00～17:00)



hachikura tour

「ハチクラたび」が始まります

八幡平をもっと楽しむための体験型プラン
「ハチクラたび」が始まりました。ハチクラが紹
介する魅力ある自然や風景、暮らしや人に触れ
ながらステキな旅をしてみませんか。

問い合わせ先
(株)八幡平DMO

https://hachimantai-
snow.trip8.jp/tobikkiri/



ビッキーと行く 八幡平

「古の街道をゆく」

撮影地／西根寺田



●ビッキーとは、八幡平市の非公認マスコットキャラクター。
その正体は、樹上で暮らす森の住人・モリアオガエル。
「大湯沼とモリアオガエル」は国指定の天然記念物です。

撮影

三浦 学

WILDGRAPE FARM、ORCA DESIGN 代表

古代の道、旧鹿角街道にある七時雨文化発祥の地を訪れたビッキー。赤い橋を渡って奥の鳥居をくぐり、白坂薬師堂跡に向かいます。当時の人々を偲んで杖を片手に気分はもう古代にタイムスリップだね！

ハチマン

八幡平をもっと楽しむためのフリーマガジン 2021 . Vol. 31

令和3年9月25日発行 発行：八幡平市商工会

Take Free